



みすどかる

須坂小学校

「自分から」「つながる」
「認め合う」

須坂支援学校

「自分から、自分で、
せいっぱい」

住所:須坂市須坂 780

印刷:須坂小学校職員室

発行責任者:竹村信之(校長)

「共にある学校～つながる～」～差別をなくす市民大集会で学習発表～

11月19日(土)にメセナホールで「第49回部落差別をはじめあらゆる差別をなくす市民大集会」が開かれ、須坂小学校・須坂支援学校が「共にある学校～つながる～」のテーマで動画による発表をしました。子どもたち・職員・保護者のつながりの中で、子どもたちが確かに育っている良さをお伝えすることができました。

当日の発表より



普段でもお互いにあいさつをしたり、支援学校の廊下を歩くと笑顔で手を振ったりしてくれます。須坂小学校は長野県の中で唯一、支援学校と一緒に校舎で勉強できる小学校なので、これからも大切にしていきたいです。 <児童代表>



保護者アンケートから

<須坂小学校の保護者の声>

「1年生になり、初めて支援学校の存在を知り、交流してみても子どもたちは何の疑問もたず、ただ楽しく過ごせたようです。6年生になっても同じ気持ちで楽しく交流できれば素敵だと思います。」

「どのような子が支援学校にいるか教えてくれました。多様性を受け入れようとしているようです。」

「校内に支援学校があることで、障がいを個性として捉えることができると思っています。それは、小学校を卒業してからも続いていてやさしくできると人から聞きました。皆違うことを認めあえる子になってほしいです。」

<須坂支援学校保護者の声>

「須坂小と多くの交流があることで、支援学校の子どもたちも刺激をもらい、須坂小の子どもたちにも支援学校の子どもたちを自然な存在として受け入れてもらえたらと思います。」

「障がいの有無に関係なく、一緒に遊び、一緒に学べる今の環境は本当にありがたいと思っています。須坂小の子どもたちがやっているのを見て、まねて、たくさん成長させてもらっているのでもこれからも交流を続けてほしいです。」

共に聴き合いたのしむ

音楽会



丁寧な声かけと優しい声かけが受け入れられて嬉しかったです。

「参加させてもらう」交流から「日常にかかわり共に学び合う学校」としての交流へ



これまででも…そして これからも…
つながる 広がる 交流の輪



アンケートからは、小さな頃から自然と交流があることの良さがたくさん書かれていました。子どもは壁を作らず素直に受け入れ、感じ取っていきます。一方、大人の方が考えすぎてしまい、どうしても壁を作ってしまうがちです。私たち須坂小学校と須坂支援学校の保護者が両校の子どもたちから学び、つながることが必要だと感じました。チャンスはたくさんあると思います。これからも「共にある学校」の良さを活かして、子どもたちはもちろん、保護者もつながっていききたいです。 <PTA役員発表より>

一般参加者の感想から

- ・とても分かりやすい発表でよかった。支援学校との交流のよさが伝わってきた。
- ・須坂小と支援学校の交流について知らなかったのでも、知ることができ大変よかった。
- ・二校が一緒にあることを初めて知りました。仲良く活動を行っていて、とてもよかったです。
- ・須坂小・支援学校のお子さんが楽しく互いを認め合っている姿がとても素敵でした。
- ・子どもたちにはわだかまりなどなく、素直な心で受け入れていることがすばらしかった。
- ・大変感動しました。大人と違って子どもは教育で変化します。よいところを伸ばしてほしい。
- ・両校が「つながっている」ことを十分感じました。なぜ、差別が起きるのか、忘れさせてくれました。企画もよかった。御柱祭り、仲良し交流、原級だより、いいですね。

「ファイナルコンサート」で6年生有終の美・・・そして引き継ぎへ



12月2日（金）に小学校6年生の鼓笛のファイナルコンサートが行われ、3～5年生、そして6年生の保護者の皆様に直接演奏を聴いていただきました。今年度の鼓笛も、コロナ禍で集まって練習することができず、夏休みまでは家庭での自主練習がほとんどでした。自分の演奏を録画した動画を宇治先生に見てもらいアドバイスを受け、また練習し動画に撮りアドバイスしてもらい、を繰り返す自主練習を積み重ねてきました。



宇治先生に感謝の花束贈呈

そうした努力を重ね、運動会・校内音楽会・親善音楽会と発表を重ねるごとに、音に磨きをかけ、ファイナルコンサートでは、これまでで一番の音を響かせることができました。曲を創り上げるだけでなく、真剣に取り組みできないことが少しずつできるようになる喜びや、ひとつのものを皆で創り上げる達成感、支えてくださる方々への感謝の気持ち・・・たくさんの育ちがありました。

コンサート後のメッセージを見ると、1～5年生にもしっかりと6年生の頑張りが伝わり、あこがれ（5年生は緊張感も）をもっていることがわかります。12月8日（金）には、6年生から5年生への引き継ぎ会が行われ、鼓笛のバトンが渡されました。

伝統を引き継ぎ、素晴らしい自分たちの鼓笛を創り上げた6年生、ありがとう、そしてお疲れ様でした。支えていただいた保護者の皆様、ありがとうございました。

5年生からのメッセージ

ファイナルコンサート、すごかったです。音を合わせられなくて、あんな個性的な音の一つの曲にして、本当に心に残りました。来年、私も、みんなの心に残る鼓笛をしたいです。

すばらしい演奏をどうもありがとうございました。来年の今ごろぼくたちがあそこで演奏すると思ったら、とてもドキドキします。でも、今の6年生を目標に、がんばりたいです。



6年生から5年生へ、楽器をメッセージカードと共に引き継ぎました



1年松組の「おみせやさん」大盛況でした!

1年松組は生活科で「おみせやさんをひらこう」と、レストランやお花屋さん、クリスマスのお店などに分かれて、メニューや商品づくりに取り組んできました。「なかよく」を目標にグループで話し合い、折り紙や画用紙を、切り抜いたり、貼り合わせたり、いろいろな形に折ったり・・・たくさんの商品を用意しました。

先生方や菊組、支援学校のお友だちに招待状も書いて渡し、いよいよ12月14日(水)に開店。工夫にあふれたそれぞれのお店の商品やメニューを前に、支援学校の子もたちも「どれにしようか」と真剣な表情で選び、品物を決めて、(こちら手作りのお金で)会計していました。どのお店も大盛況、店員さんもお客様も笑顔があふれる時間となりました。



大盛況で、店員さんもお客さんも真剣な表情

「う～ん、どれにしようかな」といっしょうけんめい選ぶ支援学校のお友だち。店員さんとのやりとり・支払いも、大事な勉強です。

「ぷれジョブ」が再開しました!!

コロナ禍で中断していた「ぷれジョブ」が3年ぶりに再開しました。まずは須坂支援学校の希望者から、ということで、小学部2名、中学部1名、計3名が、それぞれ、須坂図書館、中央公民館、キタザワ美容室で働く体験をすることになりました。



11月に再開に向けての打合会で、事務局の皆さん、サポーターの皆さん(一人の子どもに、2名ずつついてくださる)と顔合わせをしました。皆さん、「ぷれジョブが再開するのを心待ちにしていた」と笑顔でお話されていて、支えてくださる地域の皆さんの温かさを改めて感じました。

ぷれジョブ実施日には、サポーターさんが学校へ迎えに来てくださり、一緒に事業所へ行って、活動を一緒にやったり見守ったりしてくれます。終わったら家まで送ってくださいます。3人はそれぞれ、第1回の体験を緊張しながらも無事終わりました。週に1回のペースで実施し、毎月1回の定例会で、活動の様子を報告し合い、レクリエーションで楽しんだりしていきます。

子どもたちが、地域の中で自分らしく輝く姿を、事業所の皆さん、サポーターさんを始めとする地域の皆さんがつながって支えていく「ぷれジョブ」。この、須坂ならではの取り組み、皆様のご理解、ご協力をお願いします。



事業所の方、サポーターさんと一緒に1回目のぷれジョブ実施。緊張しながらもがんばりました。



定例会で、1回目の振り返りと次回の打ち合わせ。真剣です。

12月の校長講話から

12月7日の小学校の校長講話では、「教室はまちがうところだ」の絵本を紹介し、次のような話をしました。

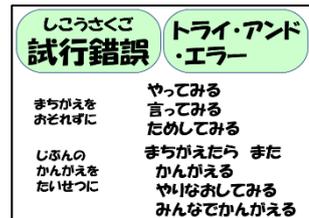
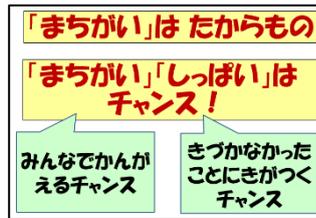


この本は、「教室はまちがうところだ」という詩を絵本にしたものです。この本の中の「まちがうことをおそれちゃいけない」「まちがったことをわらっちゃいけない」そして「ああじゃないか、こうじゃないかと みんなで出しあい言いあうなかでだ ほんとのものを見つけていくのだ そうしてみんなで伸びていくのだ」このところが大切だなあ、と思います。大事なものは、正しいかまちがっているか、ではなく、「自分で考えること」、そして「考えたことを伝えること」、「そこからみんなで考え合って本当のものを見つけていく」、ということです。

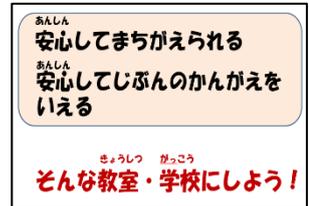
先日、みんなの授業を見せてもらっていた時、あるクラスの算数の授業で、自分で式を作ってそれを隣の席の友だちと説明し合う場面がありました。その時に、何人かの人々が、友だちの式を見て、自分の書いたことを消してしまって書き直していました。「もったいないなあ」、と思いました。友だちと違っていても、自分の書いたものはぜひ残しておいてください。自分が考えたことを、もっと大事にして、どうしてそう考えたかを伝え合い、考え合えるといいなあと思います。正しい答えが一つだけポンと出るよりも、いろんな考えを出し合い、話し合うことが勉強になります。

みんなが自分の考えを出せるために大切なこともこの絵本には書いてありましたね。「まちがったことをわらっちゃいけない」「ばかにしちゃいけない」これがとても大切です。みんなのクラスはどうですか？ 安心して間違えられる教室、安心して自分の考えを言える教室になっていますか？

私は、「まちがいばかりのもの」「まちがいや失敗はチャンス」だと思っています。友だちとちがう意見が出たときは、みんなで考え合うチャンスです。そして、自分が気付かなかったことに気が付くチャンスだと思います。



難しいことばで「**試行錯誤**」ということばがあります。「**トライアンドエラー**」ということばもあります。これは、まちがいをおそれず、自分の考えを大切に、まずやってみる、言ってみる、試してみる。そしてまちがえたら、また考える、やり直してみる、みんなで考える、ということです。この、**試行錯誤**をどんどんしてほしいなあと思います。



そうやって、みんなで伸びていくために、安心して間違えられる、安心して自分の考えが言える、そんな教室・学校にしていきたいと思います。

まちがいを恐れ自分の考えを出さないのではなく、「自分の考えを大切に」→「考え合い本当のものを見つけていく」子どもたちであってほしい。「『自分らしさ』に気づき、こだわる」こと、まず、これを大切に。そして、「その自分らしさを発揮して、他者とのかわりの中で時には違いをぶつけ合いながら、成長していく」、そんな過程を大切に教室・学校でありたいと思います。

本年度、「目指す子どもの姿」として挙げた「自分から」「つながる」「認め合う」の3つ。須坂小の子どもたちは、とても温かい気持ちや責任感のある子どもたちだと感じています。その中で、「つながる」「認め合う」の主体となる「自分から」の「自分」を確立すること、それを大切に意識して日々取り組んでいきたいと思っています。

須坂小学校は26日(月)、須坂支援学校は27日(火)に2学期終業式を行い、1月9日(月)までの冬休みに入ります。本年も、新型コロナウイルス感染症の対策で制限のある学校生活となりましたが、その中で、子ども同士のつながり、地域とのつながりを工夫して学びを継続し、子どもたちの成長した姿をたくさん見ることができました。これも、保護者の皆様、地域の皆様にご理解とご協力をいただき、温かく見守っていただいているおかげです。本当にありがとうございました。

令和4年も残すところ数日となりました。皆様、よいお年をお迎えください。